

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度第2回史跡大森勝山遺跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成27年11月10日(火)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後1時30分から午後3時45分まで
開 催 場 所	裾野地区体育文化交流センター 和室 史跡大森勝山遺跡
議 長 等 の 氏 名	委員長 工藤竹久
出 席 者	委員長 工藤竹久 委員 岩瀬直樹 委員 岡田康博 委員 関根達人 委員 須藤司 オブザーバー 県教育委員会文化財保護課 小笠原総括主幹
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 氏 名	教育部長 柴田幸博 文化財課長 三上敏彦 同課課長補佐 工藤雅人 同課埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 福原健
会 議 の 議 題	(1) 史跡大森勝山遺跡整備計画について (2) 現地視察 (3) その他
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	
会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）史跡大森勝山遺跡整備計画について

工藤委員長 : 植生については、各地区とも現状保全を前提としているが、史跡北東のカラマツ（防風林）との整合性はどうか。

事務局 : カラマツは現状で北東側平野部への遮蔽植栽となっている。周辺畑地に対する防風林の役割を有するとともに、史跡景観における目隠しの役割も有しているものと考えており、機能更新を前提としたい。

関根委員 : 環状列石のレプリカでの本整備はいつ頃となるのか。

事務局 : 最短でアクセス道路整備後の３年後となる。

岡田副委員長 : 坂道ルートにおけるスロープの事業費はどのくらいか。

事務局 : 現在、計画策定支援業者に積算をお願いしているが、史跡整備の一環であり、補助対象としたいと考えている。業者及び建設政策課とも協議しているが、アクセス道路がないとそもそも史跡本体での整備が開始できないとの結論に至っている。本史跡での整備における最大の課題となっている。

岡田副委員長 : アクセス道路は市単費での整備を想定しているか。

事務局 : 史跡整備における工事車両用道路として、少なくとも路盤整備までは補助対象となるものと想定している。ただし、舗装は市単費での整備が必要となるかもしれない。

岡田副委員長 : 史跡整備補助金以外の国補助事業化、または県事業採択の可能性はないのか。

事務局 : 補助率の点から文化庁の史跡整備補助事業が適していると考えている。

工藤委員長 : 環状列石の整備方針にある「レプリカに拠らない整備」とはどのようなものか。

事務局 : 現段階ではVR等のIT技術による遺構表示等が想定される。
しかし、ここ数年の公開活用事業での来訪者の反応からは「本物を見たい」という意見が多い。遺構の保護等、当市の方針を説明すると概ね理解はいただくが、それでも現地に立った時に「環状列石の大きさ（ボリューム）は感じたい」との意見が出てくる。事務局としてはあくまでもレプリカ等により、現地での遺構表示を前提としたい。

環状列石には周辺河川から採石された自然石が使用されているが、現在では

採石が困難となっている。現在、市で実施している弘前城石垣修理事業において、岩木山麓の砂防・治山ダムからの採石を検討しており、本史跡についてもそれらの採石候補地からの採石を検討していきたい。

関根委員 : よく似た石材を持ってくるといことか。

事務局 : その方向で検討している。検討段階ではFRPや擬岩も検討したが、基本的には自然石での整備を検討したい。

工藤委員長 : FRPや擬岩は景観にそぐわないと思う。環状列石の測定の精度は大丈夫か。

事務局 : 光波測量機とCADによる座標測量データがある。昨年度来の公開活用事業でも、本データに基づき実物大のシートを作成しており、問題はないものと考えている。

関根委員 : 調査成果を踏まえると、斜面地に捨て場が存在することは、遺跡理解の上で鍵となる。植生等で範囲表示するとともに、出土遺物等の情報提供を行い、本史跡が環状列石だけではないことを示す必要がある。

工藤委員長 : 坂道ルートにおけるスロープはかなりつづら折りになっている。スロープについては足腰の元気な人がショートカットしてしまうことも多い。

事務局 : 後ほど現地も視察頂くが、かなり高低差があり、折り返しが必要となる。また、スロープが整備された際には現在のルートは植栽等で埋めるか、階段を別途整備するような形としたい。現在の坂道ルートは、既に表土の洗掘が始まっており、何らかの措置は必要と考えている。

関根委員 : 岩木山麓はかなり多湿だが、木製デッキの場合、どれくらい持つのか。

事務局 : 20年程度と想定される。床板の交換など、維持管理作業は10年程度で必要となると思われる。

なお、木製デッキの場合、緊急車両等の通行は不可能となる。事務局としては、台地上でのイベント開催等の際に、最低限軽トラック、または不整地運搬車の通行が必要と考えており、現段階では盛土によるスロープ案を選択したい。

工藤委員長 : 全体の工事スケジュールの組み方の問題だが、環状列石の整備には台地上へのトラックの乗り入れが必要となるのではないか。また、その際、史跡への仮設道路も整備する必要があるのではないか。

事務局 : 現段階では工事用仮設路を設置する用地もない。整備の前提としては史跡へ

のアクセス道路が必須となる。まず「道」を整備し、次年度史跡本体の整備という流れとなるものと考えている。なお、環状列石については調査時の排出土を復したのみであり、一部では環状列石を覆う保護用の土木用シートが露頭しつつある。遺構保護の観点からも保護盛土は必要であり、ルートの確保が必要となる。

工藤委員長 : アクセス道路のルートに分岐させて工事車両用のルートを作るのか。

事務局 : 現在の駐車場までのルートは同じ。史跡内へは仮設路を設置する。台地上での整備後、スロープを作り、撤収しつつ駐車場に戻ってくる形となる。

工藤委員長 : 現在の植生については、縄文時代の有用植物も多い。また、クマザサのおかげで斜面地には人が入れない状態となっている。

事務局 : 植生は基本的には現状維持とし、それらの有用植物は見学できる形としたい。周辺のクマザサについては遮蔽植栽の役割も果たしている。

議題（２）現地視察

1) 見学路について

工藤委員長 : 見学路は現状で雰囲気が良い。

事務局 : 現在の活用頻度であれば、現状維持も可能だが、既に一部表土には傷みも見られる。これから来訪者の増加を見込むのであれば、少なくとも台地下のルートについては何らかの園路整備が必要と考えている。

2) 遺構表示について

岡田副委員長 : 環状列石は露頭してきており、保護盛土は必要である。また、大型堅穴建物跡については復元すると撮影スポットとなるかもしれない。

事務局 : かなり大型な建物となり、復元後の維持管理も含めて、課題が多いと考えている。今年の公開活用イベント「じょうもん祭り」でも実施したが、建物のボリュームは、イベント時に仮設的に復元するものとし、通常は範囲表示と復元図等で情報提供する方向で検討したい。

工藤委員長 : 維持管理も含めて考えれば、復元は課題が多いように思われる。

岡田副委員長 : 遺構表示を基本としたほうが良いかもしれない。

3) 捨て場及び盗掘坑について

関根委員 : 捨て場の表示は植栽で十分。盗掘坑は埋めたほうが良い。

事務局 : 整備時に埋め戻す方向で検討中。

4) 現地視察を終えて

工藤委員長 : 草刈りは年2回か。また、何年実施しているのか。

須藤委員 : 今年は何年3回実施した。雑木伐採も含め20年ほど実施している。坂道ルートは再調査に伴い開通させたものだが、刈り続けたところクマザサは落ち着いてきている。

関根委員 : 現坂道ルートはスロープ設置後も残すのか。また、大森川の見学場所は残すのか。

事務局 : スロープ設置後も階段等を設置して残すことは可能。大森川の見学場所は転落防止用の柵等を設置し、整備したい。

岡田副委員長 : 台地上への管理用の動線確保は必要。景観上は木製デッキの方が落ち着くかもしれないが、盛土によるしっかりとしたスロープを設置し、緊急車両等が台地上へ行けるようにしたほうが良い。

須藤委員 : 昭和50年代に農村整備に係る補助金があり、地元負担3割で農道を整備した記憶がある。今でもあるかははっきりしないが、活用できるのではないか。

事務局 : 農林部にも相談したが、本アクセス道路に関連させることができるような事業はないとのこと。また、そのような事業は採択にも時間がかかる。

色々な財源について検討してみたい。ただ、農道整備については市が実施主体となると3割負担というのは想定しづらいと思われる。その点、文化庁の補助は5割であり、補助率が高い。財源については、今後関係各所での情報収集を進めたい。

議題(3) その他

事務局 : 整備計画の今後の予定を報告。

今委員会で、整備に係る基本的な方向性については承認を頂けたと考えている。今後、整備内容について工法及び予算の具体化を図りたい。また、整備計画についてはアクセス道路の問題も含めて、文化庁との協議を進めたい。